

## いい勉強をしているなあ

「『お食事中、よろしいでしょうか』と聞けるとよかったね。」  
「あっ、忘れたあ！」

「面接練習をお願いします」と、昨日食事中の私の元に依頼にやってきた三年のK・Rさんと、彼女に付き添って校長室前に控えていた三年主任Y教諭の会話です。そのやり取りを耳にして、「おっ、いい(社会)勉強しているなあ」と私はうれしくなりました。

事前にY教諭よりK・Rさんの昼休みの面接練習を依頼されていましたので、私はそれを十分心得ていました。しかし、主任としては、生徒が直接校長に依頼するという形をとらせたいと考えたようです。それで、四時間目終了後、検食している私の元へ、二人でやってきたのです。

K・Rさんは校長室にいる私の前に進み、「昼休みに面接練習をお願いします」と、礼儀正しく依頼しました。入室の仕方も、依頼するときの姿勢や態度も、そして、話す時の言葉遣いも問題ありません。一昨日練習した二人と同様、もうそれだけで面接はバッチリだと思いました。そんな彼女とY教諭が校長室の前の廊下で交わした会話が、先に書いたやり取りです。

Y教諭が指導したかったことは、自分の用件を果たす前に、相手の立場や都合を気遣いなさいということでした。礼儀正しく用件を果たしたK・Rさんを認めながら、大人としてのアドバイスをタイムリーに与えました。K・Rさんも意識はあったのでしよう。「忘れた」という言葉がそれを物語っていました。

携帯電話が普及し、固定電話の存在がずいぶん薄れてきました。私たち教師も連絡したいことがあると、保護者の携帯電話にかけることが多くなりました。それが相手の立場や都合をないがしろにすることがつながらなければよいが、と私は危惧(きん)しています。

家庭への連絡手段が固定電話しかなかった頃、家庭への連絡は遅くとも午後八時までにしなさいと指導されたことがあります。それは相手の立場や都合を考えた上での常識とされています。

しかし、ほとんどの人が携帯電話をもっている今、「午後八時まで」という基準は、どこかに吹き飛んでしまった感があります。取り次ぎなしで、話したい相手がいつでも出る携帯電話によって、相手の立場や都合を気遣うということが忘れ去られてきたようです。

日常生活においても然(しか)りです。取り込み中であっても、当然のごとく自分の用件を押し付けてきたり、無神経な単刀直入(たんとうちくしゆ)を振りかざしたりすることが、以前と比べて多い世の中になりました。

そんな状況の中の、「相手の立場や都合を気遣う」というY教諭の指導は、非常に大切なことです。今回は忘れてしまいました。K・Rさんは相手の立場や都合を気遣うすてきな大人になるだろうと、二人のやり取りを聞いて確信しました。「いい(社会)勉強をしている、させている二人」です。

(一月二十七日記)